



『前に立つ、^{あいだ}間に居る、後ろに立つ』

副校長：武藤 浩之

幼小合同。更には80周年の「冠」までついた今年の「運動会」。9月の半ば以降、これほど天気予報を見て、また、これほど天気を恨めしく思ったことはありませんでした。同じく幼小合同の「学院祭」と共に9月を終えたかったのですが、仕方がありません。次こそ「運動会」を、と願うばかりです◆話題を変えます。年に3回、全家庭に配付している小冊子があります。「よき家庭」です。発行元は、日本カトリック小中高連盟。目的はカトリック学校と家庭をつなぐことにあります。昨年12月、Vol.126となるこの小冊子の中の、あるコラムに目が留まりました。「教員の役割」と題したコラムです。以下、メモに残した幾つかのキーワードをもとにしながら、私的な解釈を交えつつ、その概要を述べます◆「教員の役割」として示されていたのは三つの立ち位置でした。それは「前」「間」「後ろ」です。子どもの「前」に立つのは、模範、師範のため。つまり、意志や信念、精神力、行動力などを背中ですす教育です。その一方で、子どもをありのままに受け止め、受け入れることも時には必要です。それが「間」に居るという立ち位置です。三つ目は「後ろ」です。例えば、子ども自身が新たな環境に身をおくようになったり、何らかの壁に向き合ったりする場合です。励まし、勇気づけながら次の一步を踏み出すように促す。その上で、そっと背中を押してあげる。子どもの「後ろ」に立つのはそのためです◆「前」「間」「後ろ」の立ち位置。コラムの題は「教員の役割」でしたが、それを「保護者としての役割」、ひいては「大人としての役割」としても、さほど差支えはないでしょう。こうした認識を持ちつつ、小冊子「よき家庭」の目的の通り、教員と保護者の方々、学校と家庭とのつながりを、今後も大切にしていきたいです。

4年目の『邁進』

学院祭 学校側担当：加藤いづみ

今年創立80周年を意識しつつ、9月30日(日)に幼小部の学院祭を開催することができました。この日のために、幼稚園児から6年生までの子どもたちは、様々な作品の制作に一所懸命に取り組んできました。また、4,5,6年生は、自覚と責任を持って各々の仕事をやり遂げました。桜の会 幼小部三役の方々をはじめ、全保護者ならびに同窓会の皆様におかれましては、たくさんの物品のご協力、そして前日・当日のお手伝いなど、多大なるご協力を頂きました。多くの皆様方に深く感謝申し上げます。80周年にふさわしく、聖母の精神通りに皆が一つになり、最後まで突き進んだ学院祭となりました。まさに4年目の『邁進』！です。



【追記】加藤教諭は、4年連続で学院祭の学校側担当をしています。そのスタートは平成27年。担当1年目の小見出しは『復活』でした。以後、『充実』、『飛躍』と続き、今年の『邁進』に至っています。これは近年の学院祭の歩みであり、加藤教諭の想いでもあります。(武)

「お知らせ」「確認」

事務室からの連絡

10月3日(水)

●「給食弁当」の日になります。翌日4日(木)から4年生の「登山合宿訓練」が行なわれることによるものです。

10月10日(水)

●授業料：口座引き落とし日
*未納分がある場合は、まとめて引き落としになります。
*10月10日(水)当日の入金は引き落とされません。前日までに残高の確認をお願いします。

10月17日(水)

●私学振興大会請願陳情署名：提出〆切
*署名欄が空欄とならないよう、ご協力をお願いします。

「制服移行期間：生活指導部」

★本日(10月2日)から「衣替え」です。
★10月11日(木)までは「制服移行期間」になります。天候や体調等に合わせながら、ご家庭の判断で着用させて下さい。
*児童手帳P.11。女子は赤帽(ベレー帽)。

「北海道地震における義援金」：奉仕委員会

★北海道には、私立小学校連合会の加盟校が二校あります。これまでの募金活動から義援金として_____円を送金します

中米からのお客様

★10月3日(水)から一か月半、中米より来日したシスターが本校で何度か過ごします。「Sr.Hna.Sandra Margarita,CND」です。
★目的は短期研修(主に日本文化の体験)です。平常授業の参観、行事への参加などを予定しています。

ミニコラムNo.39 「英語を通して見える世界」

英語科担当 猪本 恵美

■「えー、どこの国でも7色じゃないの?」

それは1学期のことです。英語の授業中に、3年生が驚きながらこんな声を上げました。色の学習にて行なった活動の最中です。2年生の時に学習した国名を復習しながら、それぞれの国の虹の色は何色が一般的か、ということ推測して「英語」で答える学習活動でした。

□日本で常識とされていることが海外では常識ではないことが少なからずあります。この学習活動は、英語の学習をしながら、そういうことにも触れて欲しい、というねらいのもとで行ないました。

■英語習得の大切さが叫ばれ、小学校でも教科化されることは周知のことですが、それに踊らされて、何のために学ぶのか、その意義や楽しみを子ども達が見失ってしまうようでは、まさに本末転倒です。基礎学力の習得に力を入れつつ、子ども達が(英語を通して見える世界って興味深い)と思ってくれるような授業を目指して努めています。

□学んだ成果が見えるのは、何年も先かもしれません。それでもいつの日か、(あの時学習して良かったな)と喜んでいる姿を想像しながら、日々、子ども達と向き合っています。



"How many do you have?" "I have five!"